

第2回補助金検討委員会議事録（議事要旨）

- 1 開催日時 平成16年4月19日（月） 午後7時00分～午後9時00分
- 2 開催場所 浦安市文化会館3階第1練習室
- 3 出席者
（委員）
小泉 允 囿 委員長、 川口 明 浩 副委員長、
大川 三 敏 委員、 渡邊 襄 一 委員、藤岡 順 次 委員
館 里 枝 委員、 仲澤 泰 委員
（事務局）
藤澤 邦 夫 経営企画部長、鹿野 正 廣 経営企画部次長
新宅 秀 樹 財政課長、及川 力 主査、渡辺 豊 副主査
文違 一 博 副主査、玉野 広 宗 主任主事
- 4 欠席者
（委員）
野崎 実 委員
- 5 議 題
 - (1) 浦安市補助金状況について
 - (2) 他市事例について
 - (3) その他
- 6 議事の概要
 - (1) 浦安市内部での補助金検討状況について
補助金検討委員会設置までに市内部で検討を行った資料を提出し、事務局より説明を行った。これらの資料について質疑・検討を行い、次回検討委員会までに、事業の目的別等に補助金を区分した資料を事務局より提出するになった。
 - (2) 他市事例について
補助金交付基準の事例として佐倉市、宇和島市の事例を事務局より説明した。八王子市、我孫子市については委員より説明を行なった。
 - (3) その他
次回会議の開催は、平成16年5月18日（火）と決定した。
- 6 会議経過
浦安市補助金検討委員会の開催に先立ち、市事務局職員の異動があったため、藤澤経営企画部長より報告を行った。
委員長より第1回検討委員会の会議録に関する報告が行われ、委員の承認を頂いた。
第1回検討委員会にて提出を求められてた資料について事務局より報告を行い、その後、これら資料、報告に関する質問、意見などを頂いた。
委 員：補助金の各交付団体の収支決算額、補助金額等を提出された資料により見ることができ、その他の情報として、各交付団体は、特別会計又は基金をもってい

るかどうかを確かめることはできるか？

事務局：全てではないが、周年記念事業などの開催に向けての積立金、基金の設置などがなされている団体も見受けられるが・・・。

必要とあれば各担当課への照会をかけることは可能である。

委員：補助金に対する監査はしっかりと行われているか？

いくつかの団体の事業等に参加させていただいたが、市としてしっかりとした監査が行われているのか疑問をもったことがある。

市の自主努力の中できちんとしたものにまとめないと、130からある補助金をこの検討委員会に付託されても時間的にも大変困難なものがある。

第1回委員会でも意見が出されていたが、これらの補助金を点数化して評価を行うとしても、補助事業の内容が把握されないと判断に困る。

例えば、ある事業に対し、一団体の自主事業としての補助金と、市としての事業を委託的に出されている補助金とでは判断基準が違ふし、委員会で判断できるものではない。

委員：検討委員会設置までの市内部での検討資料から判断すると、市として補助金の評価をかなり行っているように見えるが、この検討・評価段階では、どのような評価をしたのか？今回提出された資料の中にあるチェックシートを使用して、検討・評価されたのであれば、この時の資料を提出していただけないか。また、各補助金の帳票類等もいっしょに確認されて評価されているのかどうかについても確認したい。

市内部でここまで検討されていながら実際に廃止等できずにいることから考えると、市内部だけの検討では一定の限界があるものと考えられ、結局、今回のように外部の目での判断を求めたとは思いますが・・・

事務局：まず、チェックシートについては、この検討委員会設置前に市内部の委員会で補助金に対する評価基準等が作成できないかと検討した中で作成されたチェックシートであり、もともとの報告書作成時にはなかったものである。

次に、帳票等の確認については市内部の委員会では行っていない。その代替的な確認手段として委員会で定めた書式による提出資料で審議したものであり、例えば備品等の確認、在庫等の確認までは行っていない。

委員：補助金交付団体のあり方、組織、補助対象事業の範囲の決め方等について市が主体的に指導することから始めなければならないのではないかと。

現状の中で、補助金の金額の多寡だけに目をむけているが、そのような指導があって最終的に補助金の規模の検討に移っていくべきではないかと。

少なくとも補助の対象となる事業範囲の区別はしっかりと位置付けるべきではないかと。

委員：我孫子市のようなゼロ・ベースで、各年度毎に団体又は担当課が補助金の必要性を検討し、審議を行えば、数字の削減は図れるが・・・

委員：チェックシートを見ただけでは事前審査なのか事後審査なのかがわからない。補助対象事業の目的、実績、将来性はどのようになっているかをこの検討委員会でも検討する際には必要な資料として示してほしい。

もともと事業を知らない外部の委員でも、このような補助事業に関する資料があれば客観的に評価基準を設定することが可能であり、それに基づいて、その他の補助金についても評価ができるようにしたい。計画と実績を分けて評価するような、事前評価・事後評価の観点や予算実績評価などの観点が必要ではないか。

委員：補助金の交付における対象事業ごとの補助率や補助対象事業費そのものが明確であるべきではないか。また、補助金交付の判断には公平性の観点が必要。

委員：内容的に同じような事業に対して補助金が出されており、統廃合を行うべき。

委員：補助金で支出しているもので、市がやるべき事業であれば、委託費に変えていくべきものもあるのでは。

委員：補助金を支出する担当課の判断等を確認したい。補助の必要性、実績の把握を確認したい。

補助金を必要とする団体はアピールする場が必要で、説明、報告をするべきではないか。

委員：団体にも補助金に対するコスト意識をもたせる必要性がある。

委員：我孫子市はゼロ・スタートの方式をとっており、交付基準、評価等を3段階の方法で行った。全補助金交付団体に対し決算書などを確認して評価点をつけたが、仮に一度補助金交付を却下されたとしても、申請をした団体は担当課とヒアリングを行うことが出来る。

やはり、行政側の一方的な判断は難しいようである。

事務局：宇和島市は担当課の参加を求め、一件一件の見直しを行っているようである。

この中で交付基準を作成しているようであるが、実施しているその他の市でも必要性、公正性など项目的には同様のようである。

委員：八王子市の場合は、検討委員会の前に外部監査が入り、その後、監査の指摘事項をもとに検討委員会で補助金等交付基準の設定を行った。

八王子市も担当課の出席を求めたりし、1年間かけて行っている。

八王子市は補助要綱等もないものがあったり、歴史の古い町であるため、資料が不明であるものもあった。

浦安市を見てみると要綱等はあるようだが、補助金交付の当初の趣旨などについて、時代のながれからその趣旨が失われているものもあると考えられる。

委員：今後の進め方を考えると、現在交付されている補助金に対して、何らかの区分を行う必要があるものと考えられ、例えば「施策補助」と「公募補助」、「運営補助」と「事業補助」などの区分が考えられるべきである。各委員も、どのような区分が考えられるかについて意見をまとめておいてほしい。

また、補助金交付団体に対する指導案なども今回の検討委員会で考えられるべきである。

委員：次回に向けて資料の作成にあたっては市としての行政上の事業目的などで区分することも考えられる。例えば、生涯学習、ｽｰﾝ振興、社会福祉の向上、環境保全等の区分であるが、この検討委員会としては、まず、このような区分のもとで類型化された補助金の各項目の中から、いくつかの団体の出席を求めながら、区分ごとに評価基準を検討し設定していったらどうか。

事務局：今回提出し検討された資料について、上記の議論を参考に事務局のほうでさらに区分を行い、資料として次回の検討委員会に提出する。